

経営比較分析表（令和元年度決算）

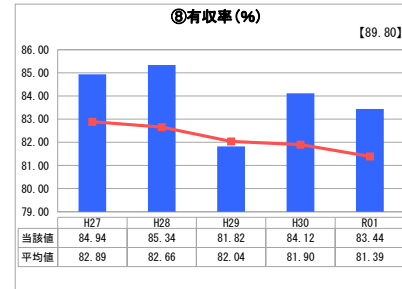
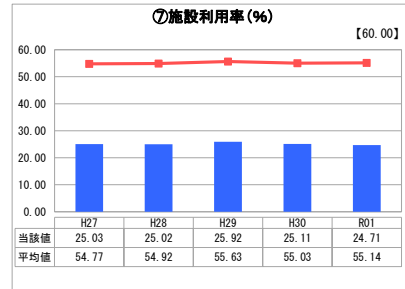
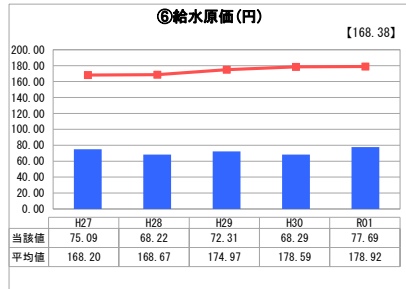
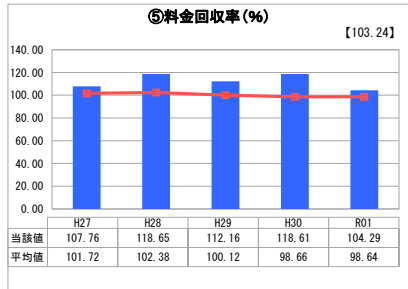
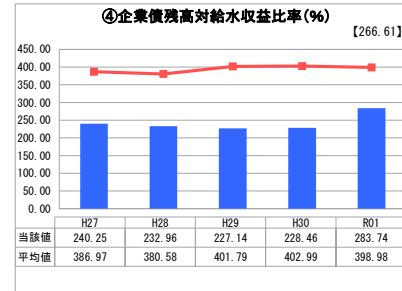
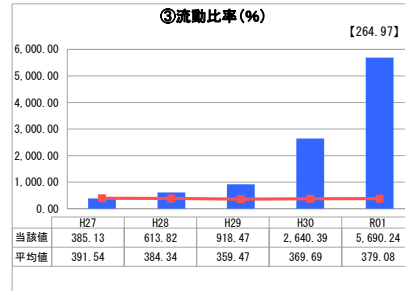
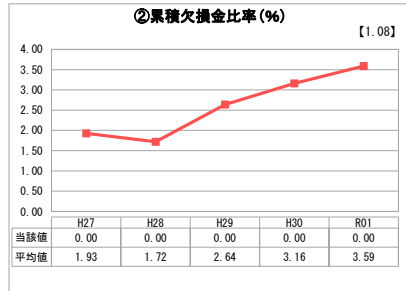
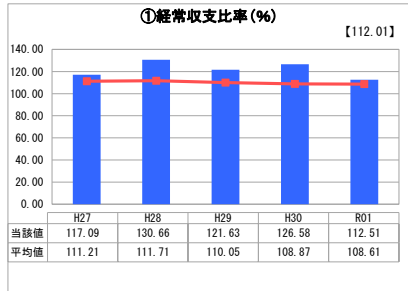
岐阜県 笠松町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	83.42	99.01	1,607	

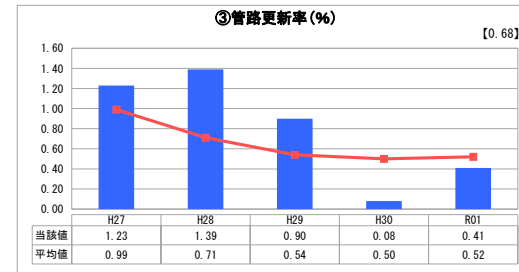
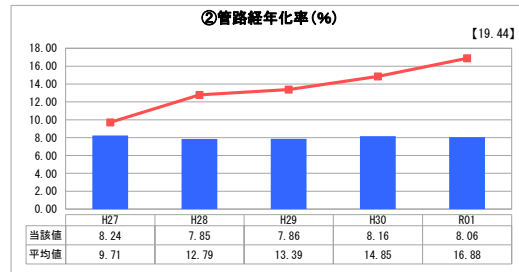
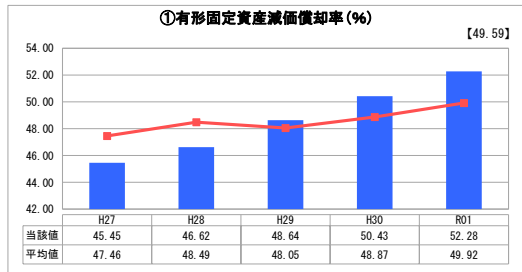
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
22,227	10.30	2,157.96
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
21,961	7.30	3,008.36

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当町の水につきましては、地下水を使用していることから、多くの処理をしなくても良質な水道水を提供することができ、全国的にみてもかなり低い料金となっております。

財政面において、料金が安いことにより給水収益が少ない中においても、経常費用を抑えることにより、単年度ごとにおいての黒字経営を維持してきております。

また、第1水源池改良工事において、企業債を借りましたが、企業債残高対給水収益比率は、類似団体と比較しても企業債の残高は低い状況であります。これは、故障等に対して早急に対応することで、大きな修繕工事ではなく修理等により機器の延命を図ってこれたことによるものと思われる。

有収率については、定期的な漏水調査の実施を継続し、かつ日々の流量の監視、パトロールの強化に努めたことにより類似団体平均値を上回っております。引き続き漏水調査の実施及び老朽管の更新等を実施し有収率の向上に努めていきます。

施設利用率では実配水量に対しての施設規模が類似団体と比較して、余剰気味であることから、今後水源池施設の更新をする際には、必要水量等を十分に精査し、適切な規模にすることが必須であると考えております。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価却率が増加傾向にあります。これは、法定耐用年数に近い資産が増加していると考えられるため、計画的に施設等の更新を進めていきます。

平成29年度からは、平成28年度に策定した新水道ビジョンの水道施設更新計画に基づき管路更新の整備を進めており、管路経年化率は類似団体平均値を下回っています。管路更新率は、平成30年度においては、下水道工事を行わなかったことにより、水道管更新工事を見送ったため管路更新率が下がっておりますが、今後も健全な数値を保てるよう、計画的に老朽管更新工事を行っていく必要があると考えています。

全体総括

現段階においては、安全な水を安い料金で供給できておりますが、昨今の節水機能を備えた設備の充実等により1件あたりの有収水量が減少している現状から、給水収益の減少が懸念されております。

今後、効率かつ安全な水の供給を実施するためには、水道管や水源施設の老朽化による更新を、状況を見極めながら計画的に実施しなければなりません。

更新するにあたり多額な費用を要することから、投資・財政計画を策定して計画的な経営を行うことが重要と考えております。

引き続き、経営戦略に基づき、経営の健全性を確保するとともに、施設等の更新を計画的に実施し、将来への負担の先送りにならないよう、適正な料金設定を検討しなければならないと考えております。